

西条市学校適正規模・適正配置等審議会（第5回）議事録

日時：令和6年10月28日（月） 14時30分から16時05分まで

場所：庁舎本館5階501会議室

出席委員：15名 ※欠席委員5名

- 1 開会
- 2 議題

(1) 東予地域の学校適正規模・適正配置に係る計画（案）について

資料1【東予地域小中学校の学級規模の推移】、資料2【学校間の直線距離（東予地域）】、資料3【東予地域の適正化計画（案）】、資料4【統合に係る通学距離 について（東予地域）】を説明

- 3 意見交換

■委員

質問だが、前回の西条地域の適正化計画では、Ⅰ期計画の統合しか示されていなかった。今回は合計25年にわたってⅠ期計画とⅡ期計画の統合案が示されているが、その時の状況によってという言葉が先ほどから何度もあったので、Ⅱ期計画で今示されている目標は変更になる場合もあるという理解で良いか。

□事務局

お見込みのとおり、概ね10年後に見直しを考えている。その時の状況などに合わせて、将来推計についてもやり直すことになると思うが、それら推計を踏まえた上で、計画を見直す必要があると考えている。

■委員

そうすると、現在、東予東中校区は壬生川小と、多賀小、吉井小、周布小の3校統合という案が示されているが、それも変更の場合もあるということか。

□事務局

これについても、壬生川小を統合する可能性も含め、再検討していくことを考えている。

■委員

河北中学校区、東予西中学校区の計画について、小学校では、まず、河北は3校をⅠ期で統合して、その後、国安小、吉岡小の2校で統合するⅡ期計画ということになっており、そうすると、河北の3校は2回統合の可能性が出てくると思うが、これをⅡ期に分けている理由を聞きたい。

□事務局

まず、河北中学校区については、緊急性がとても高いことからⅠ期計画になっているが、国安小と吉岡小については、Ⅰ期計画、今後の10年の計画として基本方針に当てはめてみると、まだ適正化が必要ではないという判断になる。その後の令和18年から令和32年までの間となる、15年間の推計を見てみると、そこで適正化の必要があると判断したので、Ⅱ期計画としている状況である。

■委員

そうすると、Ⅱ期計画が終わる時には、小学校5校の統合という可能性もあるのか。

□事務局

Ⅱ期計画が終わる時には、そういったことも考える必要があると思う。その時の児童生徒の状況や、更にその後の推計など、それらを踏まえた上での判断になるが、可能性としてはあると思われる。

■委員

説明の中で、今後地域と協議していくという話があったが、例えば東予東中学校区のようにⅡ期計画しかない、Ⅰ期計画では特に動きがないところも、来年度以降、地域の中で協議会のようなものを作って協議を進めていくのか。

□事務局

まず、現段階で考えているのが、全市的に情報発信をする場としてタウンミーティングなどを活用して、この計画について説明していきたいと考えている。その後になるが、統合を計画する地域については、新たに組織を作るか、既存の組織を活用するかにより、計画内容についてより具体的な説明等をした上で、合意形成を図っていきたいと考えている。よって、Ⅰ期計画、Ⅱ期計画に入っていない地域については、全体の説明の場で周知する一方で、計画に入っているところについては、更に別の機会を設け、具体的な説明などを行いたいと考えている。

■委員

資料1の子どもたちの学校の人数が令和32年まで示されている。私は地域とも関わっているが、消滅可能都市ということで数字が上がることが多々ある。その中で、小学校の人数が、市から配布されている学級規模の推移の子ども的人数とすごく乖離している。例えば、吉井小であれば、令和27年でいくと消滅可能都市の方の資料では100何人という数字であるが、学校規模の推移の人数を見ると53人で大幅に人数が乖離しており、今後資料を作るにあたって、この数字は両方揃ってくるのか。

□事務局

今回提示している資料との乖離があるという話であるが、まず、この資料については、教育委員会において直近で捉えている令和6年度の実績値をもとにして、将来推計を示したも

のになる。ご指摘の比較元となる資料は、更に古い時点の実績などから推計した数値ではないかと思われる。この審議会で活用する資料としては、直近の数値を基にした最新の内容で判断していただくよう作成したものである。比較されている資料についても、現時点でよく確認できていないものの、その担当部署とも協議した上で必要であれば検討したいと思うが、少し内部で整理させていただきたい。

■委員

東予東中学校区の小学校の統合の組み合わせとして、壬生川小と周布小、多賀小と吉井小のような組み合わせは考えなかったのか。

□事務局

壬生川小と周布小であるが、位置的な関係性、距離を考えると、この地区の中では最も遠いという点がある。まず、今回の適正化については、位置的な関係性も統合の判断基準と考えているので、組み合わせとして壬生小と周布小は検討していない。よって、多賀小と吉井小という組み合わせについても、先ほどの周布小に課題があるため考えておらず、位置的な関係性からも、多賀小、周布小、吉井小という組み合わせがベストと判断して、今回の計画案としている。

■委員

先ほどの続きで、私が持っている資料は西条市自治政策研究所というところが元になっているが、添付されている資料については何もそういったことが記載されていない。そこを記載してもらうことは可能か。

□事務局

次の会議資料から対応したい。また、ご指摘の元となっている資料は、自治政策研究所が作成した総合計画の検討資料などの中の数値と思われるが、この審議会の資料は、先ほども説明したように、今年度の実績値に減少率などの係数をかけて推計している。基準となる年度の数値が、実績値なのか、過去の推計値などからかで、ズレが生じているだけと思うが、係数などの推計の方法は揃っていると思われるものの、再度確認したい。

■委員

児童生徒数の今後の推計だが、推計の仕方について信憑性が非常に低いのではないか。例えば、地域で心配しているのは、学校が統合されると極端に人口が減って生徒も減ると思う。そのような点も考慮しているのか。ただ単なる机の上での数字で推計しているのか。実際の社会情勢や地域性を考慮しているのか、そのあたりが疑問。今生まれてくる子であれば、大体5、6年先までは出ると思う。それ以降の数字というのは信憑性があるのか。推計の仕方を説明してもらわないと、ちょっと不安に思う。もう1点、壬生川小学校は国安、吉岡と一緒にできないかというのを、一つの検討として入れておくべきかと思う。そうすると中学校が西中学校区になるので、その辺の変更も出てくるが、図面上で見ると距離的にはそれぐらいまで統合できるのではないかと思った。

□事務局

まず、この資料の信憑性ということであるが、先ほど説明したように、自治政策研究所が作成しているものと同じ手法で資料を作成しているが、そのベースとなる統計資料としては、国立社会保障人口問題研究所の将来推計が全国的に公表されている。そこで示された数値等を基にして、更に各地域の状況を踏まえた上で資料を作成していることから、現状、提示できる数値としては、これが適正なものであると考えているが、この計画は、10年後を目途に、その時点による見直しも考えており、その辺りを踏まえた上で、ご理解いただきたい。また、統合校の組み合わせについても、計画の見直しの段階になり、その時点の審議会などで意見をいただきながら、更に議論を重ねた上で統合が可能であるという考えになればと思うが、現状では校区を超えた統合というのは、少し難しいと考えている。

◆会長

10年後の推計では少し遅いかも知れないので、3年、4年後ぐらいにもう1度やり直してとか、その辺りのルール等と決めておいた方が良いと思う。また、こういった推計値というのは、上限、下限が示されることが多く、そういう示し方をすると納得が得やすいのではないかな。

■委員

人数というのは、本当に見るもので全然違う。教育基本方針を確認したが、基本方針が違うのではないかなと思うぐらい数値が異なっている。学校を経営する中で、各学年が1クラスの学校より2クラスずつある学校の方が、教職員、特に今の若い教職員が非常に増えているので、運営や経営はしやすいと思う。毎年、学級替えを行うが、子どもたちにとっても選択肢が増えるということを見ると、意見のあった東予東中学校区の小学校の統合というのは、壬生川小がいずれ1クラスになるので、壬生川小と周布小、多賀小と吉井小を統合することで、同じ規模の学校が2校あるという方が、学校を預かる立場からはやり易いと思った。

■委員

文部科学省が平成27年に適正規模適正配置の手引きという資料を出していて、多分それを元にしてと思うが、配布された資料では直線距離となっている。文部科学省は、「徒歩や自転車による通学距離としては、小学校で4km以内、中学校で6km以内」と記載していて、ここでは通学距離となっている。しかし、配布された資料では直線距離に変わっている。実際の距離というのは、今後検討していくのか。それとも、それは無視してスクールバスなどで対応していくという方向性なのか。

□事務局

本日の配布資料になるが、3kmと4kmのラインを、点線と実線で記載しており、実際の通学距離については、その直線距離に概ね1.4を乗じた数値になるということが論文などに示されているため、それを採用した上で、先ほども説明したが、配布資料では、直線距離3kmが通学距離にして約4km、直線距離5kmが通学距離約6kmと捉えて、その範囲を示している。

■委員

河北地区に住んでいるが、やはり肌感覚としては、山間部も多く抱えているので、この直線距離よりも長いような気がする。この会議でも何度か話が上がっているが、スクールバスとかの導入というのは、今後避けて通れない問題になってくると思う。そうした時にも、バス路線の廃止なども相次いでいるので、民間にバスを頼ることは非常に難しくなっているの、市が直営というか、市のバスで運営をするという考え方を持っているのかというのがまず1点。次に、統合について、河北地区3小学校はI期で、場合によってはまたII期で、長期間にわたり2回統合がある可能性もある。そうした時に、学校設備の更新の問題なども出てくると思うが、統合を控えていると、もちろん緊急性の高いところは対応いただけると思うが、統合するからしばらくこれは我慢してという話になった時に、その期間が長くなればなるほど子どもたちにとっても、この設備の更新という意味で、学校によって不利益が出てくるのではないかと思う。西条市内の学校で、子どもたちが統合を控えているかどうかによって設備的な不利益を被るということがあってはならない。そのあたりは、どのように考えているのか。

□事務局

まず、バスについては、路線バスが廃止になる中、この適正化を図る上では、市がバスを所有して運用するという必要であると考えている。先の話にはなるが、そういうことも考えながら進めたい。次に、施設の関係については、各学校が統合する際には、一定の整備は必要になると思うが、その統合を控えることによって不利益が出るようなことがないよう留意しながら進めていく必要がある。例えば、統合があるからなどで、学校の安全性を担保しないということはない。実際、今年の2月に西条北中で外壁が落ちるという残念な事故があったが、先の9月定例市議会に関係予算を承認いただいたところであり、この外壁改修については統合とは別で進めたい。また、耐震補強については、本市の耐震が国の基準を満たしていないことで、毎年のようにニュースにも上がってきており、この外壁改修に合わせて、耐震補強も進めたいところである。教育委員会のスタンスとしては、特に安全に関するところについては、早急に対応を進めたいと考えている。

■委員

この会議の第1回資料で、審議会で答申がまとまった後、総合教育会議に基本計画の案を提出して、3月から4月頃にパブリックコメントを経た上で6月頃に基本計画が策定されるということを知っている。パブリックコメントや6月に基本計画が策定された後は各地域への説明等になると思うが、実際に聞こえてくる地域の声としては、統合について賛成か反対の意見を言う時に、1番最初に質問されることは、どこの校舎を使うのか。次が、通学はどうなるのかということがまずは質問に上がって、その上で賛成か反対か考えようという、多分皆さんの感覚としてはそのような考えの方がほとんどではないかと。基本計画、パブリックコメントを募集する、あるいは基本計画の案を策定して説明するという時点では、ある程度の見通しを立てて、そのような質問にも対応できるようにしていただきたいと思う。さらに、中学校では、令和8年度から17年度の10年間で統合しますと言ったら、中学校は3年間しかなく、自分の子がその期間なのかどうなのか、すごくピンポイントになってくると思うの

で、その時期も全体で順番にやっていくようなイメージになるのかわからないが、1番気になるのではないかと思うので、今後の見通しをある程度説明していただけるような地域説明会を計画していただけたらというのが要望。計画案には賛成である。

■委員

地域の方々の顔を思い浮かべながら心配するのは、やはり関わった小学校の保護者の顔が浮かぶ。その人たちが、1回目三芳小、楠河小、庄内小で統合して、次また統合しないといけなくなった時に、大変苦しいだろうと思う。最初の会議でも意見したが、そういうのがあるのであれば、もう一気にやってくれた方が楽なのではないかと思う。いつも少ないから統合してとすると、マイナスばかりでできた学校はマイナスでしかないというような、親だったらそういう気持ちになるのではないか。前向きになれるような良い学校作りをしようとか、そういう気持ちで先を見通して統合を考えなければならない。学校としては、小学校であれば2クラスあると大変ありがたい。単級だと人間関係がこじれた時に、極端な例では、中学校まで単級だったら9年間辛くなる。そういう学校もある。もし1回、小学校で人間関係がこじれて修復できないぐらいになってしまうと、その子は大変だろうと思うので、その辺も考えれば思い切った決断も必要になってくる。たくさんの学校が統合するのであれば、お金がかかることなので分からないが、バスも使いやすいのかなと、そういうことも考えられる。河北中学校区も、東予西中学校区も、多分このままではいけないだろう。部活でも、どこかと組んでチームを作る、一緒に練習をする学校と、一緒に組んで試合に出る学校が違うという難しいことをしている学校がほとんどなので、ある程度自分の中学校で部活もちゃんとできて試合に臨めるという規模になるような学校作りを目指していいのかなと思う。国安小と吉岡小もそろそろ対象になるというのが分かったのであれば、その辺も考えていいのかなという気がする。

◆会長

八幡浜市の中学校の統廃合について、外から眺めている状況であるが、新しい学校を作ろうとする時に、どこかに吸収されるのであれば、今のその学校のやり方で良いと思うが、例えば、校歌、校則、何か新しい学校名にしようとか、新しい学校文化をゼロから作ろうとする時のエネルギーは凄まじく大きくなると感じており、そう考えると、やはり時間がかかるものだ。もし、新しいタイプの学校、新しい名前の学校、新しい文化の学校を作ろうとするならば、少し早めのスタートと、なかなか難しいとは思いますが、魅力的な小中学校作りのためのデザインが必要であると感じている。そういう点では、よくわかっている校長会などからアイデアみたいなものが出てくると良いかなとも思う。

■委員

統合するにあたって、既存の学校を使うという考え方でいると思うが、今の学校施設はもうほとんど耐用年数がきていると思う。鉄筋で大体50年。外壁改修や耐震と言っているが、果たしてこれから20年、30年、70年、80年の施設として置いておくのか。このような統合の際に、新しい土地、新しい建物ということも1つ考慮に入れる必要があるのではないかと思う。

□事務局

耐用年数については、鉄筋コンクリートであれば50年となっているが、ただ50年で耐用年数が過ぎたということではなく、そのコンクリートの強度や状態をしっかりと判断して、その校舎、建物がどれくらい使えるかというところを判定しなければならない。先ほどの外壁改修も、一定、そのコンクリートの強度などに関係するものであり、例えば雨風など、外部的な要因が加わっても支障がない建物については、引き続き使えるであろうと考えている。逆に、年数が経ち、そのコンクリート強度自体が落ちてきているものについては、建て替えなどを検討する必要がある。実際、外壁改修や耐震などを考える時には、そのコンクリート強度や建物の状態を見て判断しているので、将来的に、その建物を引き続き使うか使わないかというところは必要なタイミングで考えたい。

■委員

そのようなところを文章として入れておいて欲しい。

□事務局

原則は、既存施設を活用することを事務局案として考えている。新しい施設整備は考えていないが、先ほど説明したとおり、建て替えなども今後は検討していく必要がある。答申の中で、審議会としてご意見をいただくことは可能であり、それらを踏まえた上で、教育委員会の計画案を策定することになるので、ご理解いただきたい。ただ、新設や新しい校舎などは非常に望ましいことではあるが、少し考えていただきたいのは、今からも子どもの数がどんどん減少していくという視点である。例えば、1つ新しい校舎を整備するとして、整備した時がマックスの状態になるものの、すぐにまた空き教室が増えていくような状況を考えると、新設して新しい学校を整備するのは、現実的には難しいのではないかと。先ほど説明したが、建物の強度などを調べて、どのように改修してもこれ以上は使用できないことになると、その時点で建て替えはあるだろうと思う。

■委員

25年ぐらい先まで計画するのだから、現状はそのように使うが、Ⅱ期計画の時には、それらも検討するとか入れておかないのか。

□事務局

その辺は表現の仕方にもなると思うが、もう使えないところは その時々に見合った面積で立てるとか、そういった内容は盛り込めるとは思う。

■委員

鉄筋の場合は、雨水で見えないところがひどくなっているケースが多い。当然そういう検査などはしていると思うが、令和32年までの計画としたらそのあたりが心配である。

□事務局

そのような内容についても、答申の中で意見をいただいた上で、教育委員会で計画案を考えたので、ご理解いただきたい。

■委員

東予西中学校区の国安小、吉岡小、令和 17 年と令和 32 年の数値、単学級で 20 前後の数値が減ってきてはいるがあまり変わってない。そんなに 17 年と 32 年で言うと 1 学級 20 人規模というのは多いかなと思うが、基本方針で、小学校は過小規模校の解消、中学校はクラス替えができる程度というのがあった。私が小学校にいた頃は 1,000 人規模の学校だったので、このような学校規模のことは分からないが、先ほどの意見でもあった、毎年クラス替える時に、次はどこクラスになるのかというのを楽しみにしていたものの、単学級の場合だとそのようなことが考えられない。教職員の学級経営のしやすさなどを考えれば、単学級よりはクラス替えがある方が良いという考え方があるならば、この基本方針で一定の線を引かないと、実際は、教職員が教えやすいとか余裕ができるなど、教職員がやりやすいという環境が子どものためになるのではないか。教職員が切羽詰まったような状態で、子どもたちに接するよりは、そういうところも考えて欲しい。

■委員

先ほど、施設のことが様々出た中で、大人の事情はよく分かるが、ただ、今の学校は言葉が悪くなるが、もうボロボロになっている。更に今後 10 年、20 年となると、超ボロボロ。そんなところに子どもたちが明日から行くとなった時に、ワクワクするのかなと思った。やはり統合は、子どもたちにとっても結構な負担になるので、子どもたちを第一にという話をこの会議でも最初から言ってきていると思うので、そういったことも考えてもらい、子どもたちにとって何が必要なのか、新しい学校というのも選択肢に入るのかなとも思うので、その辺のことも検討し、計画に入れるなりしていただきたい。

■委員

お話を聞きながら、単学級ではなく複数のクラスがあった方が良くとなると、河北中学校区は急がないといけないと感じるので、もう少しスピーディーに話が進んで、地域の方々の理解も得られるような計画を立ててほしい。

■委員

確認で、第 3 回会議の時の学校適正規模・適正配置の方針案の中で、小規模校の解消で複式学級の解消、1 学級 20 人程度という今後 10 年間の計画になっていて、これはなぜ 10 年としたのかと質問したところ、10 年間は再編が必要ない認識であるという回答を事務局から得られた。これは、何年にスタート目標があって、この 10 年間の計画となっているのか確認したい。あと 1 点、適正配置という言葉があって、新しい学校という言葉が出てくるが、前回の議事録上は、まず、「前提として」とある。前提として、既存の学校に集約する考えであるということは、元々この学校に集約しようという案があるのではないかと思うがどうか。

□事務局

まず、計画期間については、資料3をご覧くださいと、I期計画が、令和8年からスタートを考えており、令和8年から令和17年までの10年間となっている。令和7年度に計画が決まったあと、全市的な説明を始め、準備期間も含むと年度末までかかると想定していることから、この計画としては令和8年度からのスタートを考えている。また、計画を進めるにあたっては、地域の理解を得る必要があり、それを無理にでも進めるとすれば、例えば3年間でなどと計画できるものの、地域がどうしても納得しない場合や、保護者などを含めて反対しているものを進めていくことは、現実的には難しいと考えている。どの自治体の学校の再編計画においても、まず、地域と話し合いをして、保護者や地域の方の了承を得てから進めていこうとするものになっていて、その反対を押し切ってまで無理やり進める選択肢はないと考えている。従って、そこでの話し合いがいつ決着するのか不確かな状況を踏まえて、この計画期間を10年と示しており、これを例えば、時間がかかりすぎるから2年でと設定したとしても、その期間で地域との話がまとまらなかった場合には、それで計画が全て流れてしまうことになる。

■委員

では、極論でいくと、地域の理解も得られず、保護者の理解も得られなかったらこのまま現状の学校でいくという感じの発言だが、間違いないか。

□事務局

地域と保護者の理解を得られない、合意形成がないまま進めていくということはある得ないと考えている。

■委員

地域によって統廃合する速さが違うという認識であって、理解が得られない地域においては、そのままズルズルいってしまう可能性もあるという認識か。

■委員

地域の理解と保護者の理解という話があったが、例えば、河北中学校区で統合する場合、小学校3校の全ての保護者、地域の理解がないと話が進まない、最初のスタート地点につかないということか。

□事務局

できればそうはしたいとは思いますが、河北中学校区については、とても緊急性が高いと考えている。できることからということも可能とは思いますが、それらも含め少し検討は必要である。

■委員

私も保護者の立場と地域の立場、2つの立場があるので、身を引き裂かれるような思いがしているが、ただやはり、この中で子どもの気持ちを置き去りにしてしまうといけないので、そこを優先しなければならない。また、今後、学校の進学などに合わせて新しく家を建てる

ような方もいると思う。時間をかけることも丁寧とは思いますが、同時にそういった方への配慮をすることも、誠実さも必要になってくると思うので、時間を闇雲に欠けるだけではなく、子どもの立場に立って、河北地区も3校統合して、すぐまた10何年後に国安小、吉岡小と統合するとなると、これはなかなか気持ち的にも整理がつかないところもあると思う。様々な事情もあるかと思うが、最初からこの5校を統合することも1つ方針として考えてもいいのではないかと。

□事務局

この場で即答するのは難しいので、ご意見として伺っておく。また、基本的には、計画開始となる令和8年度から地元の協議会が立ち上がるよう、来年度中に、説明など準備を進めていくつもりである。協議会が立ち上がって、各地域で合意がどれだけ早く得られるかが課題であるが、当然、事務局としても全力をもって合意形成に努めたい。例え、合意が得られなかった場合でも、そこで諦めるのではなく、常に協議の場を持ち続ける考えではあるが、地域の合意が得られないまま進めることはできないので、そこは努めたい。

◆会長

県立高校の再編で少し地域の痛みがわかっているところがあると思われるが、やはり丁寧な合意形成を重視していくべきだと思う。

□事務局

次に、先ほどの具体的な統合先の案を検討しているのではないかとという質問については、これまでも説明しているが、庁内のプロジェクトチーム等では、一定の具体的な内容を含み検討している状況ではある。それについては、今後も検討を続け、地元の協議会での説明の中などで具体的な案として示していければと考えている。

■委員

東予高校は、令和8年から東予総合高校になるので、研究を進めながら準備も進んでいるところ。統合中学校も統合小学校も次年度から統合すると、全ての学年が一度に統合するという理解でよいか。県立高校の統合に際して、全国の先進校に教員を昨年から派遣して研究を進めていて、東予高校、小松高校、丹原高校が新小松高校と東予総合高校に移行するのは年次進行となっている。そのため、令和8年の今の東予高校の校地には、東予高校の2年生、3年生と東予総合高校の1年生が一緒にいる、制度的には1つの校地に2つの学校があるという年次進行で進んでいく。丹原高校は、2年生と3年生だけがいて、1年生は入ってこない。当初、この計画を示された時に、一度に一緒になるという方法もあったのではないかと。例えば、今治の伯方高校が今治西の分校になる時、大三島高校が今治北の分校になる時は、一度に一緒になり、伯方高校に入学したが、卒業する時は今治西校の分校の卒業証書もらうという形だった。その方がいいのかなと考えたことがある。全国の先進校の様子を見ると、これは一長一短。現在、東予総合高校に向けて、年次進行の良いところにフォーカスして、子どもたちに事情を説明したり、教職員たちも新しい学校作りをしている。統合小学校となると、6年の間には5年生と2年生にお子さんがある場合もあるわけで、一度にしまわないと

難しいと思う。中学校であれば、もしかしたら自分たちが入学した中学校で卒業したい子もいるので、年次進行もいけるのだろうか。これも中3と中1で兄弟がいて、保護者の方が2つの学校の保護者。これも難しいだろうなど。このように様々想定しながら話を聞いていた。

□事務局

他市町の状況などを見ると、どちらのケースもあるが、県内の事例では一気に統合しているような状況があることから、基本的にはそのようにしたいと考えている。他市町、全国の事例等も研究しながら今後更に検討したい。

◆会長

ここで、確認等が必要な点として、計画をⅠ期、Ⅱ期に分けるのか、それとも一括して25年のスパンで考えるのかというところがあり、その合意というか確認ができればと思う。冒頭に推計の話が出たが、推計は、その前年からの角度で引っ張ってきて決まってしまうので、どうしても確実性は低くなるものである。現実には、直線ではなく、途中で横ばいになったり、もしかしたら上がることもあったりで推移する。25年先について、これに依拠してガチッと決めていくのは、やはりリスクが大きいと思う。その辺りの視点もあるので、10年で様子を見て、1段、2段の2段階構えとしながら、その10年先に人口推計がどうなるかもあるし、そこまでに、町づくりなどを進めながら、人口が増える見込みはもうないのか、諦めなければならないのかなど、その辺りについても、少し可能性も残しながら、Ⅰ期、Ⅱ期の2段階で考えるのも良いのではないかな。あと、学校の組み合わせなどは、協議会等に議論の場が移っていくとは思っている。

■委員

河北中学校区の状況をみれば、Ⅰ期、Ⅱ期というのは待てない気がする。やっぱり地域によって、子どもの少なさというか、小さくなっている感じは、肌でもうすでに感じているところがあるので、Ⅰ期、Ⅱ期の順序でいけるのは、旧西条地区と東予東中校区だけなのかなと思う。地域によって、まとめて一緒に考えて良いのかなと思う。

□事務局

計画として、Ⅰ期、Ⅱ期という期間設定を考えているが、パブリックコメントや地域から、例えば、Ⅱ期計画の吉岡、国安地区でもっと早く統合を進めるような意見が多く出てくるのであれば、そういった計画変更も必要かなと思う。しかし、まずは、各学校の将来推計などを踏まえた上で、適正化について判断しているので、この計画案のままをしたい。

■委員

学校を統合するというのは、意識の問題だが、吸収するという捉え方なのか。4校が統合して新しい学校ができるという捉え方か。それとも、4校のうちの1校に他の3つが入ってくるなど、どういう捉え方で理解すればよいか。

□事務局

吸収ではなく、新しい学校ができるというイメージで考えている。ただし、全体で合意形成が図れない場合などに、例えば、まず先に1つの学校が先に統合したいというようなケースでは、大きな学校に吸収ということになることは想定されるが、現時点では新しい学校を作るという考え方で進めている。

■委員

私も吸収ではない形の方が良いと思うが、そうすると学校を作るということは建物だけではない。ゼロからということは、校章、校歌、学校の教育目標など、ものすごく決めないといけないことがある。それを10年でやって、次5年ぐらいしてもう1回やり直すというと、これはなかなか厳しいと思うので、その辺りも考えたプランを立てておいた方が良い。吸収は、おそらく地域への説明や保護者への説明では反対意見が結構出るのではないかと思う。子どもにとって何が良いのかということを出している答えだと思し、そこは貫くべき。そうすると、新しいものを作るという未来思考型の考え方で進めていく、そこに一緒に参画していくというのも、気持ちも前向きになりやすい。1つの学校を作るというと、やるべきことは多いので、その辺りも考えながら進めなければならない。

◆会長

ひとまず、この方向性で進めて、地元の協議会が、令和8年度から立ち上がるようなので、統合をどこでやるか、そのタイムスケジュールなどについても、そこで丁寧に詰めていくことになるかと思う。

■委員

I期が令和8年から令和17年で、II期が令和18年から令和32年となっているが、II期の話し合いはいつからする予定なのか。令和18年からする予定ということか。先ほどの感じでいうと、学校も新しく作るという内容まであるのであれば、令和18年からで間に合うのか。

□事務局

基本的にはそう考えているが、まず、パブリックコメントで全体的な意見をいただこうと考えている。その次に、タウンミーティング等の場を活用して説明していく中で、例えばこのII期が遅すぎるなどの意見も出てくるかもしれない。そうすると計画の変更というものも必要になるが、現時点では、II期計画については、令和18年からと考えている。

◆会長

本日の議論の中では、まず、市の他の資料と見比べると少し数値の齟齬があったようなので、より妥当性の高い推計を出してほしいという意見があった。また、この計画を策定する際の考慮事項として、児童生徒数と通学距離での判断がメインになっているが、学校運営や中学校の部活動の観点など、多様な観点からの整理をどうつけていくかという意見、要望があったと思う。あとは、市営スクールバスの整備や単学級のデメリットなど、これまで出てきたところの確認等が意見として出ていた。前回なかったところとしては、最後に出てきた

新しい学校作りという観点である。どこかに吸収というよりも、協議会等の中で、学校名、校歌、校章、校則、部活など様々なことが決定されていくとして、概ね2年ぐらいは準備期間がかかると思うので、計画ができればすぐにでも、そういう学校作りの体制に入っていく必要があることを確認できたと思う。

4 閉会